

高等部後期現場実習を終えて

高等部3年2組 N. F

私は、校外実習で福島市飯坂町にある「けやきの村」で実習を行いました。けやきの村での実習は2回目だったので、前回の実習よりも高い目標を持って取り組むようにしました。仕事内容は、野菜加工とヘルメット組立てです。人参の皮むきは削りすぎないように注意しながら取り組みました。ヘルメットの組み立てでもミスしないように注意しながら取り組みました。どちらの仕事も、正確さや丁寧さ、スピードの面で担当の方からほめていただきとてもうれしい気持ちになりました。生活面では早寝早起きを心掛け、身だしなみを整えて働く事を意識しました。実習の最後に、担当者の方から「がんばりました。このままやる気を持ち続けてください。」とアドバイスをいただきました。やる気を継続して、卒業までしっかり学習に取り組みたいと思います。

高等部2年2組 H. K

僕は、後期現場実習で、福島市大平寺にある「ヨークベニマル大平寺店」で二週間実習をしてきました。仕事内容は、品出し、前進作業、袋づめをしました。品出しでは、納豆、豆腐、お菓子、カップ麺、袋麺、マヨネーズなどの品出しをしました。最初は、品出しのやり方が分からず、教えてもらいました。一番大変だった事は、バーコードの三ケタの番号を見ながら賞味期限の入れ替えをしたことです。頑張った事は、前進作業で丁寧に品物を並べたことです。僕は、初めてスーパーマーケットで実習を行ったので、初めのうちは、お客様に挨拶ができなかったり、声が小さかったりしました。しかし、慣れてくると、一人でも仕事ができるようになりました。今回の実習は、良い経験になったので、これからの学校生活で生かしていきたいと思います。

高等部教諭 石高 敦子

今回の現場実習は、高等部3年生にとっては進路決定につなげるための重要なものでした。生徒たちは各々の進路実現に向け、2週間の実習を最後まで精一杯に取り組みました。社会で働くためには、体力、そして継続する力が大切だと改めて感じました。その意味で3年生はこれまでの経験の積み重ねから、場に応じた態度や継続して取り組む力が身についてきているのではないかと感じます。さらに、それぞれの課題に応じて、卒業までの生活を充実させてほしいと思います。

また、校内実習ではサービス班を担当しました。今回、サービス班では、特別支援学校作業技能大会の作業技能検定「喫茶接客サービス」に対応した実技に取り組みました。ホテル辰巳屋の副田様を講師に招き、身だしなみ、あいさつ、笑顔などサービス業務の基本的な姿勢を学びました。接客用語、礼の仕方、歩き方、接客の仕方など身につける技能は多岐に渡りましたが、生徒たちが真剣に取り組む姿が印象的でした。たいへん実りのある2週間の実習となりました。

高等部教諭 五十嵐 佳奈

後期現場実習では、2年2組は8名が校外に出て実習させていただきました。校外実習が初めての生徒や、2回目の生徒などそれぞれでしたが、巡回に行くと学校にいるときとはまた違った表情で実習を行っていました。

学校の環境とは違った場所での実習は、緊張することも多かったかと思いますが、反省会では褒めていただくことが多くありました。一方で、コミュニケーション面や言葉遣いなどに課題がみられるというお話もありました。働く際大切になってくることは、あいさつや返事など、基本的なことが当たり前に行えることなのだと、改めて実感しました。

2年生も後半となり、よいよ具体的に将来について考える時期となってきました。日々の学習を大切に、生徒が自分に合った仕事をする事ができるよう、一緒に歩んでいきたいと思っています。

中学部後期校内実習を終えて

中学部3年1組 S. S

十一月の二週間、校内実習がありました。僕は、木工班で、十三人で花台を作りました。

はじめに、やすりがけをしました。それぞれの長さの材木をつるつるに磨きました。たくさんやすりがけができたので、僕は「たくさん花台が組み立てられる。」と思いました。

次に、組み立てをしました。みんなで協力して四十三台きれいに組み立てをしました。僕は、仕事をする上で「報告が大事だな。」と思いました。なぜなら、報告をしないと先生が間違いがないか確かめられないからです。報告をしたことで、間違いなくきれいな製品を作ることができました。

最後に僕は、校内実習をやって、「いろいろな仕事があるんだな。」と思いました。これからは、さらに細かいところに気をつけて作業をしたいと思います。

中学部3年2組 S. H

僕は、紙工班で実習をしました。紙工班では、クマ型メッセージカード、えびせんメモ帳、ハガキ、ポチ袋の製作をしました。この実習中に、意識して気をつけたことは、二つあります。

一つは、紙すきで液を流す時に、形がくずれないように、木枠をしっかりと押さえて流しました。もう一つは、言葉づかいです。実習中は、言葉づかに気をつけて取り組むことができ、目標を二つ達成しました。

大変だったことは、パルプをちぎる時に、大きさを考えて細かくちぎることが大変でした。実習中に、ふざけながら仕事をしてしまい、先生から注意を受けたこともありました。

その経験から、僕は集中力が足りないと感じました。これからの作業学習では、集中して取り組めるように、頑張りたいです。働くことの大変さも感じた実習でした。

中学部教諭 塚原 祐子

11月5日(月)～16日(金)の2週間、木工班、家庭生活班、紙工班の3つの作業班に分かれて校内実習を行いました。中学部の作業では、「休まず長い時間取り組むこと」「丁寧な言葉遣い、あいさつ、返事、報告をしっかりと行うこと」「準備、活動、片付けに自分から取り組むこと」「丁寧に製品を作ること」の目標を立てて、働くとはどんなことかを意識して活動しました。

木工班では、花台製作を行い11月20日(火)に福島明成高校で販売を行って来ました。家庭生活班では、コースターと新製品のガーゼマスクの製作を行い販売をしました。紙工班では、太陽祭で注文を受けたメモ帳やぼち袋、ポストカード、油とりの製作をし、出来上がった製品を届けました。

2週間の実習を終え、長時間の作業活動を体験し、働くことの厳しさや楽しさ、丁寧に作った製品をお客様に届ける大切さを知り、製品が売れる喜びや達成感を得られたことと思います。それぞれの班で生徒たちは、普段の作業学習での経験を生かしながら、目標達成に向けて努力する姿が見られました。その中で、各々の新たな課題も発見することができました。

今後は、自分の目標や課題に向けてさらに努力を続け成長していったと願っています。

保護者進路研修会に参加して

高等部保護者 品竹 美香

今回は、伊達郡桑折町にある「輪楽創(わらくく)」高橋徹代表の講演で、開設三年目で出来たばかりの、現在十二名の利用者がいる事業所でした。

高等部からの入学で、卒業後の進路、就労はまだまだ先の事と考えていました。情報もなく、何を聞けば良いのかも分からず、分からない事が何か分からない状況で、何度か研修会に参加し、サービスの種類や手続きの説明があり、やっと流れが分かってきました。

出来る事、得意な事を見つけて、自信につなげ、社会の一員としての居場所を作ってあげたいと思いました。今回の研修会を参考にし、よく話し合い、自立に向けて、今後の進路を決めたいと思います。